

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題

ケーススタディ研修における卒後 2 年目看護師の学びと気づき

2. 研究代表者及び所属

小山洋恵 新潟県立中央病院

3. 研究メンバー

小山洋恵¹⁾ 田中寛美¹⁾ 廣田沙綾香¹⁾ 岡田美幸¹⁾ 数見典代¹⁾ 小林綾子²⁾
高塚麻由²⁾

1) 新潟県立中央病院 2) 新潟県立看護大学

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 高塚麻由

5. 研究費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	0	0	13,568	86,307	99,875

6. 研究の概要

本研究は、卒後 2 年目看護師が新人看護職研修で取り組むケーススタディ研修において、どのような学びや気づきを得ているのかを明らかにすることを目的とした調査研究である。研究の実施に際しては、新潟県立中央病院倫理審査委員会にて倫理審査を受け承認を得た(承認番号: 1813)。研究方法は、A 病院において卒後 2 年目研修を受講した卒後 3 年目看護師 13 人に研究協力を依頼、このうち研究への協力の得られた 3 人に半構造化面接を行った。面接は 1 人につき概ね 30 分程度で実施し、IC レコーダーで録音した音声データを逐語録としてデータを作成した。データ分析は、メンバー間で逐語録を繰り返し熟読後、看護師の学びや気づきを分析単位としながら内容分析の手法を用いて分析しカテゴリー化した。その結果、学びや気づきとして 6 カテゴリーを抽出した。ケースレポートをきっかけに【自己の学習課題を明確にする】から学びは始まり、ケースへの看護実践をとおり【一步踏み込んで患者のニーズをとらえる】【患者の全体像をとらえる難しさ】を実感するとともに、【知識や経験の不足をチームで補う】【個々に合わせた看護過程の重要性を実感する】学びを得ていた。また、看護実践を文章化し振り返ることは【自己の看護を客観的にとらえる】こととなり、ケーススタディ研修は学びと気づきを得る学習機会となっていた。今後は、今回見出した結果に基づき考察を深め結論を導き出す予定である。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有 (第 50 回日本看護学会～看護管理 (平成 31 年 10 月 23～24 日開催))